

生物多様性についてのアンケート結果

県では、平成 27 年 3 月に「生物多様性しが戦略」を策定し、生物多様性の保全と持続的な利用のための取り組みを進めているところです。戦略策定から 4 年が経過したことから、生物多様性および生物多様性に関連して、エコツアー、ジビエの活用についての県民の方々の意識調査を目的としてアンケート調査を実施しました。

★調査時期：令和元年 7 月

★対象者：県政モニター 399 人

★回答数：348 人（回収率 87.2%）

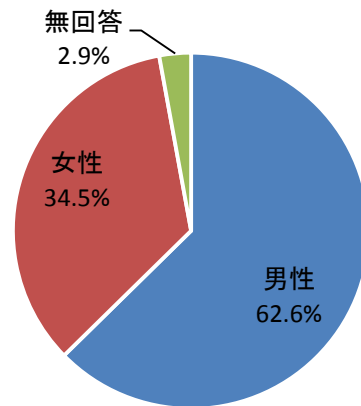
★担当課：琵琶湖環境部 自然環境保全課

（※四捨五入により割合の合計が 100.0%にならない場合があります。）

【属性】

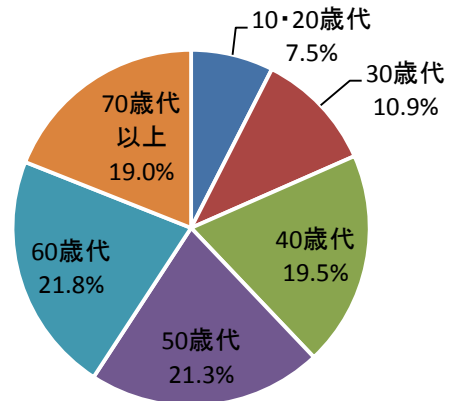
◆性別

項目	人数（人）	割合（%）
男性	218	62.6
女性	120	34.5
無回答	10	2.9
合計	348	100



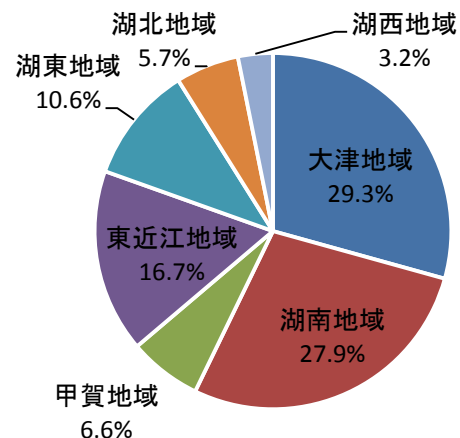
◆年代

項目	人数（人）	割合（%）
10・20歳代	26	7.5
30歳代	38	10.9
40歳代	68	19.5
50歳代	74	21.3
60歳代	76	21.8
70歳以上	66	19.0
合計	348	100



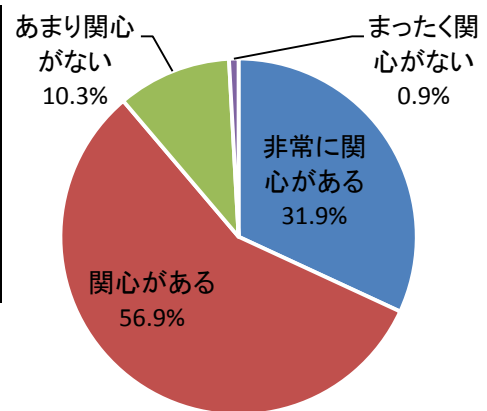
◆地域

項目	人数（人）	割合（%）
大津地域	102	29.3
湖南地域	97	27.9
甲賀地域	23	6.6
東近江地域	58	16.7
湖東地域	37	10.6
湖北地域	20	5.7
湖西地域	11	3.2
合計	348	100



問1 あなたは自然についてどの程度関心を持っていますか。(回答チェックは1つだけ。 n=348)

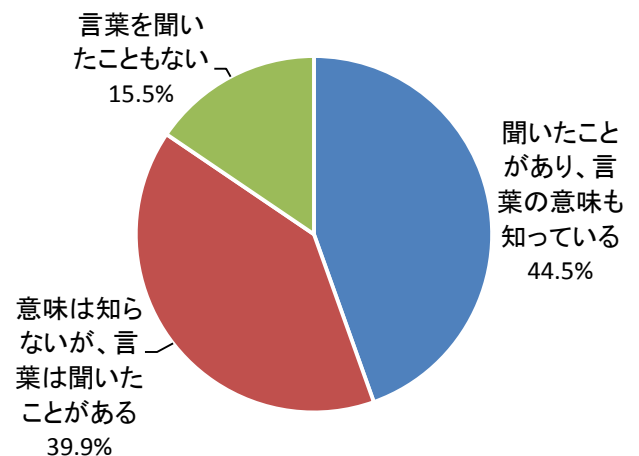
項目	人数(人)	割合(%)
非常に関心がある	111	31.9
関心がある	198	56.9
あまり関心がない	36	10.3
まったく関心がない	3	0.9
合計	348	100



問2 あなたは、「生物多様性」※の言葉の意味を知っていますか。(回答チェックは1つだけ。 n=348)

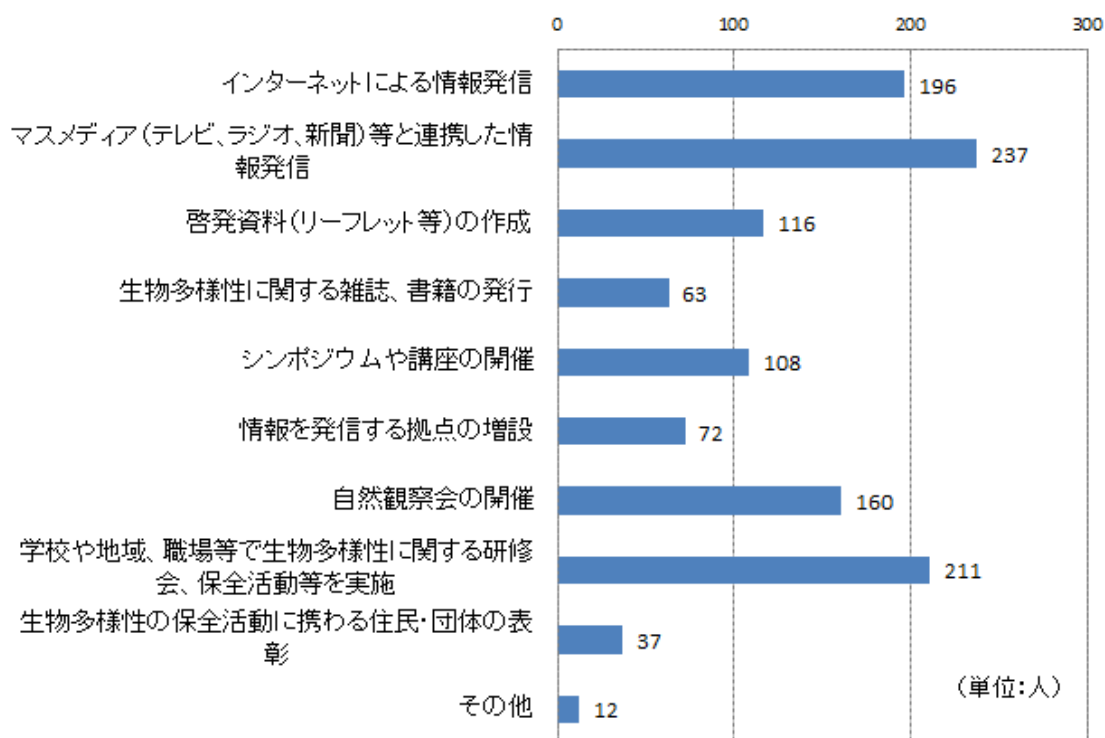
※生物多様性…「生物多様性」とは、生きものの「つながり」と「にぎわい」、「個性」と言い換えることができます。「つながり」とは、食物連鎖などの生きもの同士のつながりのことです。「にぎわい」とは、さまざまな種類の生きものが存在していること。「個性」とは、アサリの貝殻の模様が千差万別のように、同じ種であっても個体がそれぞれ違うことなどです。食料、木材、薬など、我々が日ごろ当たり前利用しているものの多くは、生物多様性からの恵みであり、人間はこれらの恵みがなくては、日々の生活を送ることはできないのです。

項目	人数(人)	割合(%)
聞いたことがあり、言葉の意味も知っている	155	44.5
意味は知らないが、言葉は聞いたことがある	139	39.9
言葉を聞いたこともない (このアンケートで初めて知った)	54	15.5
合計	348	100



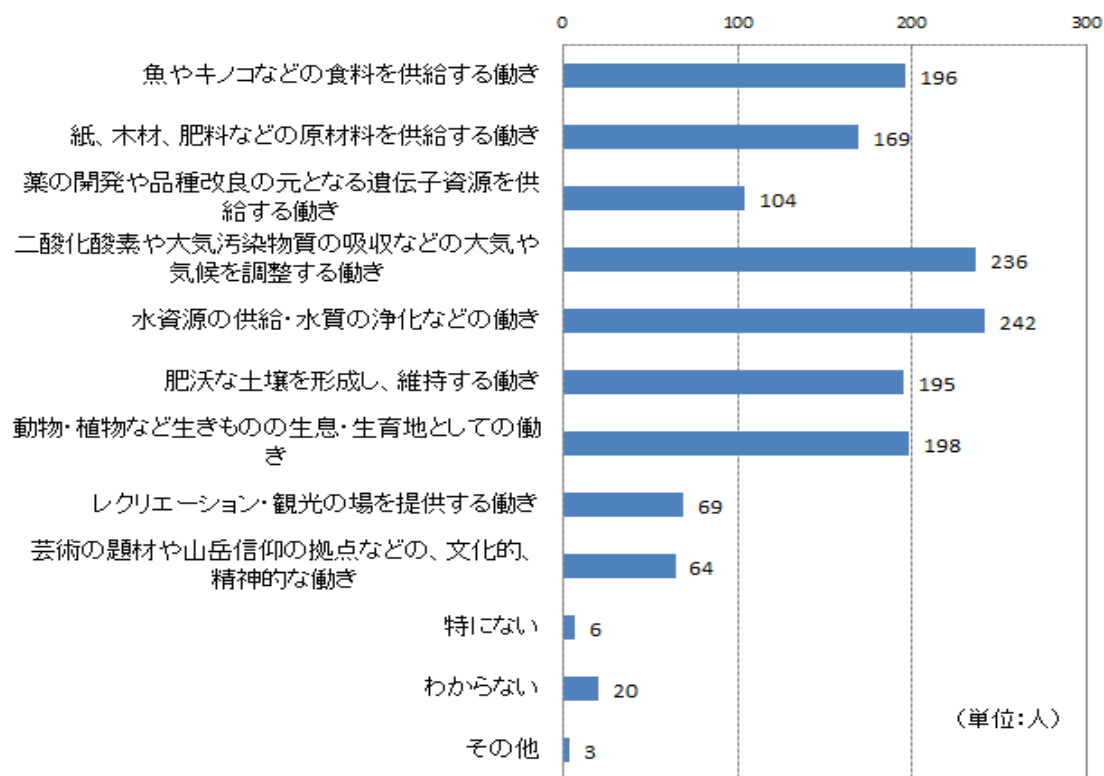
問3 「生物多様性」を広く知っていただくために、どのような方法が有効であると思われるか。(回答チェックはいくつでも可。n=348)

項目	人数(人)	割合(%)
インターネットによる情報発信	196	56.3
マスメディア(テレビ、ラジオ、新聞)等と連携した情報発信	237	68.1
啓発資料(リーフレット等)の作成	116	33.3
生物多様性に関する雑誌、書籍の発行	63	18.1
シンポジウムや講座の開催	108	31.0
情報を発信する拠点の増設	72	20.7
自然観察会の開催	160	46.0
学校や地域、職場等で生物多様性に関する研修会、保全活動等を実施	211	60.6
生物多様性の保全活動に携わる住民・団体を表彰する	37	10.6
その他	12	3.4



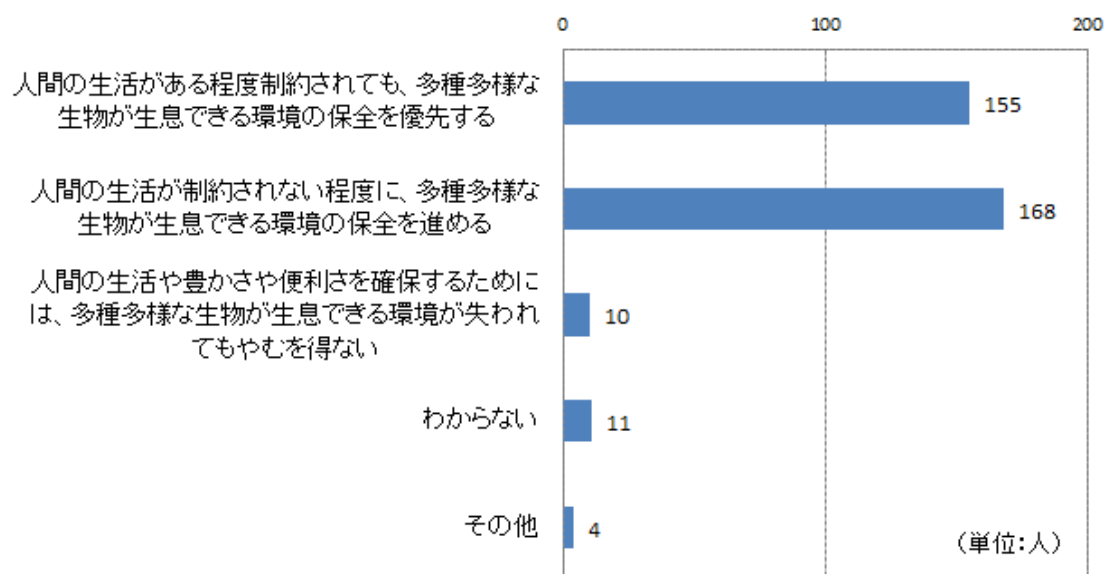
問4 わたしたちの生活の中であたりまえと思っていることの多くが、生物多様性のたくさん恵みの上に成り立っています。この恵みのことを「生態系サービス」と呼んでいます。あなたは「生態系サービス」のなかで、どのようなものが重要だと考えますか。（「10.「特にない」「11. わからない」を選択した場合を除き、回答チェックはいくつでも可。n=348）

項目	人数（人）	割合（％）
魚やキノコなどの食料を供給する働き	196	56.3
紙、木材、肥料などの原材料を供給する働き	169	48.6
薬の開発や品種改良の元となる遺伝子資源を供給する働き	104	29.9
二酸化酸素や大気汚染物質の吸収などの大気や気候を調整する働き	236	67.8
水資源の供給・水質の浄化などの働き	242	69.5
肥沃な土壌を形成し、維持する働き	195	56.0
動物・植物など生きものの生息・生育地としての働き	198	56.9
レクリエーション・観光の場を提供する働き	69	19.8
芸術の題材や山岳信仰の拠点などの、文化的、精神的な働き	64	18.4
特にない	6	1.7
わからない	20	5.7
その他	3	0.9



問5 生物多様性の保全のため、貴重な動植物をはじめとするさまざまな生物やそれらが生息できる環境を守る取組が進められていますが、あなたは、このことについてどのようにお考えですか。（回答チェックは1つだけ。 n=348）

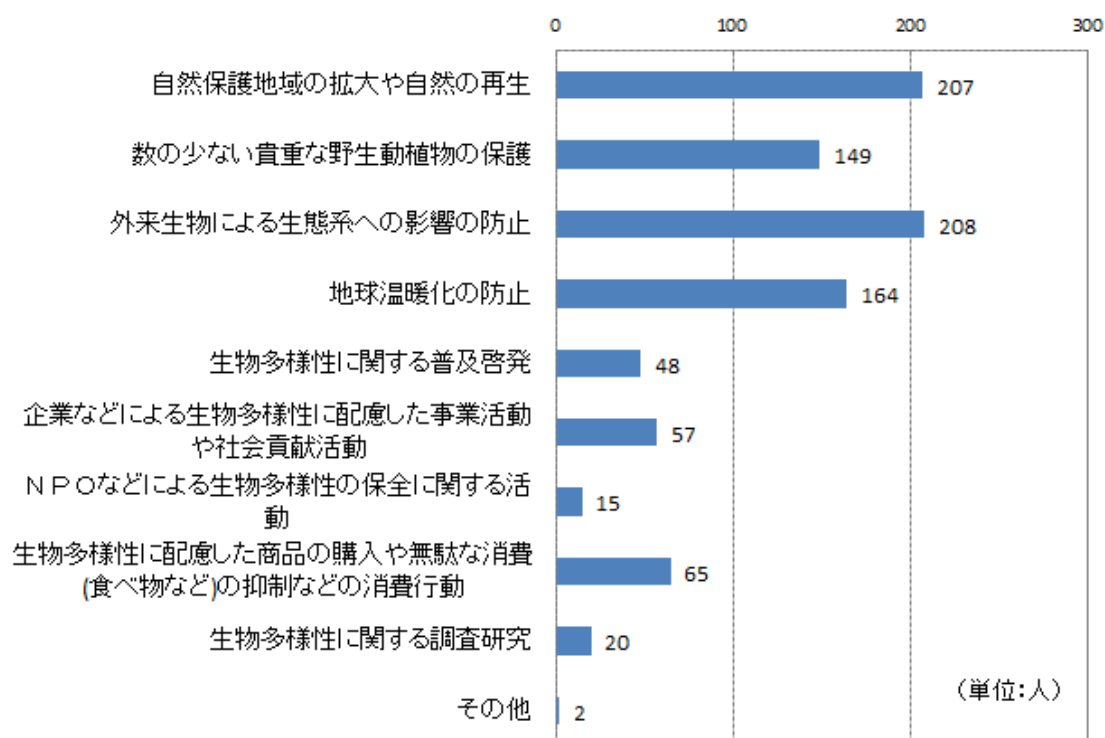
項目	人数（人）	割合（％）
人間の生活がある程度制約されても、多種多様な生物が生息できる環境の保全を優先する	155	44.5
人間の生活が制約されない程度に、多種多様な生物が生息できる環境の保全を進める	168	48.3
人間の生活や豊かさや便利さを確保するためには、多種多様な生物が生息できる環境が失われてもやむを得ない	10	2.9
わからない	11	3.2
その他	4	1.1
合計	348	100



問6 生物多様性を保全していくために、どのようなことが重要だと考えますか。

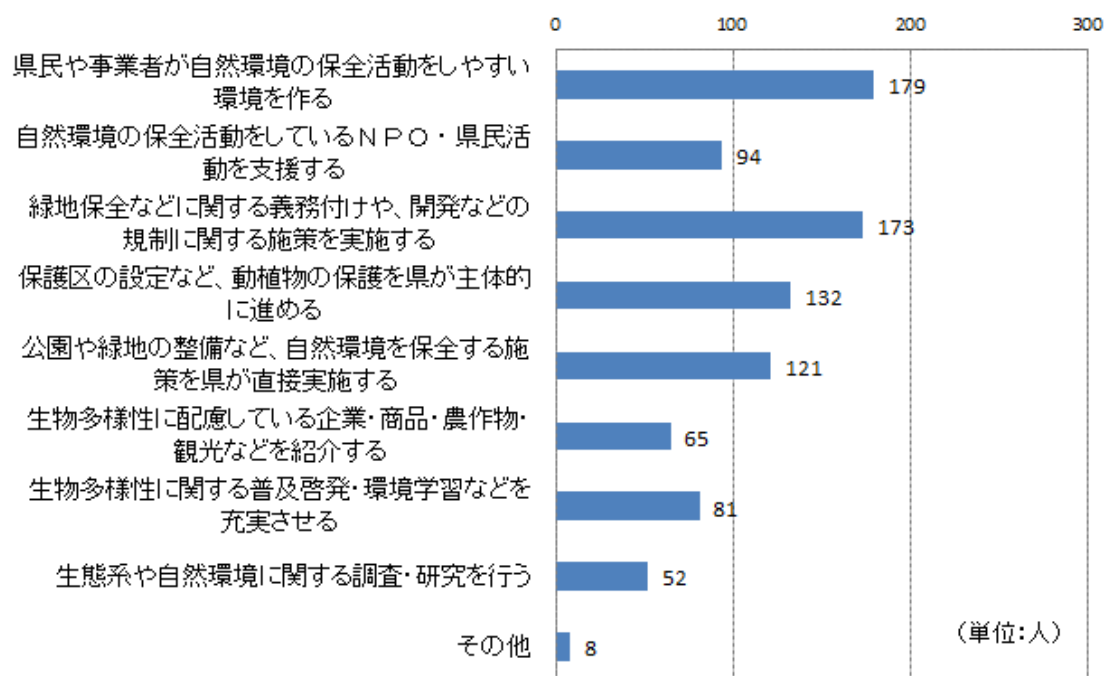
(回答チェックは3つまで可。n=348)

項目	人数(人)	割合(%)
自然保護地域の拡大や自然の再生	207	59.5
数の少ない貴重な野生動植物の保護	149	42.8
外来生物による生態系への影響の防止	208	59.8
地球温暖化の防止	164	47.1
生物多様性に関する普及啓発	48	13.8
企業などによる生物多様性に配慮した事業活動や社会貢献活動	57	16.4
NPOなどによる生物多様性の保全に関する活動	15	4.3
生物多様性に配慮した商品の購入や無駄な消費(食べ物など)の抑制などの消費行動	65	18.7
生物多様性に関する調査研究	20	5.7
その他	2	0.6



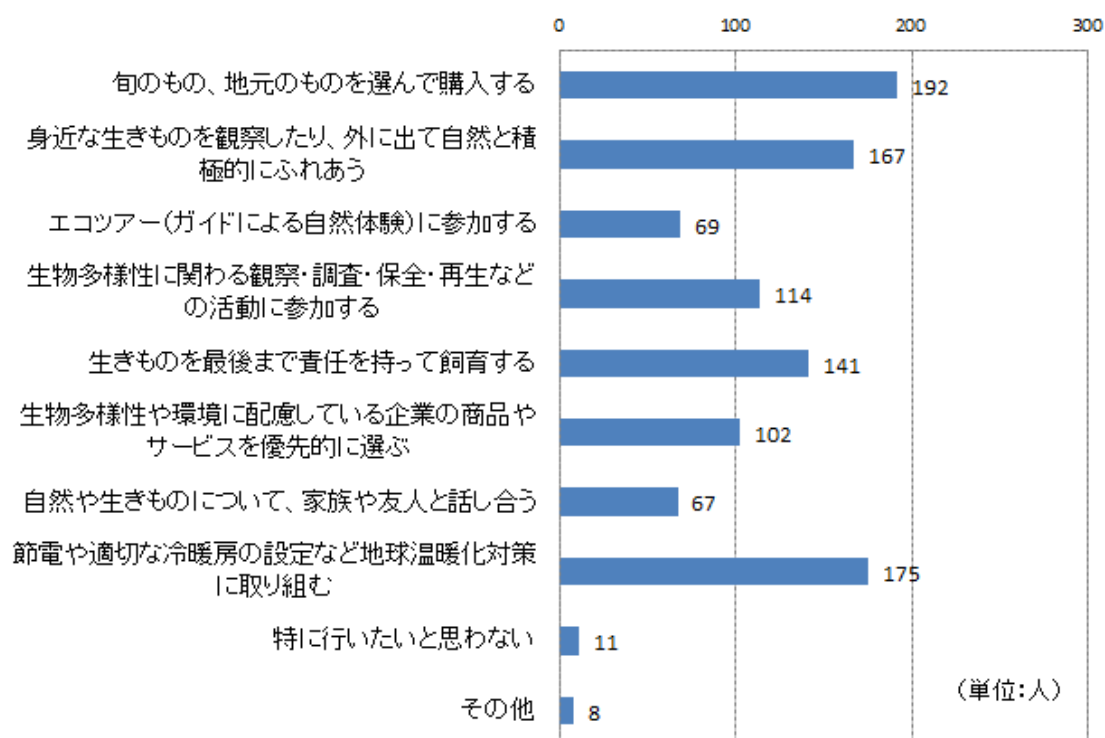
問7 生物多様性を保全したり生き物と共生していくためには、滋賀県がどのような取組をしていく必要があると思いますか。(回答チェックは3つまで可。 n=348)

項 目	人数 (人)	割合 (%)
県民や事業者が自然環境の保全活動をしやすい環境を作る	179	51.4
自然環境の保全活動をしているNPO・県民活動を支援する	94	27.0
緑地保全などに関する義務付けや、開発などの規制に関する施策を実施する	173	49.7
保護区の設定など、動植物の保護を県が主体的に進める	132	37.9
公園や緑地の整備など、自然環境を保全する施策を県が直接実施する	121	34.8
生物多様性に配慮している企業・商品・農作物・観光などを紹介する	65	18.7
生物多様性に関する普及啓発・環境学習などの充実	81	23.3
生態系や自然環境に関する調査・研究を行う	52	14.9
その他	8	2.3



問8 あなたは、生物多様性に配慮した行動として、これからどのようなことを行いたいと思いますか。これまでにやってきたことも含めてお答えください。（「9. 特に行いたいと思わない」を選択した場合を除き、回答チェックはいくつでも可。n=348）

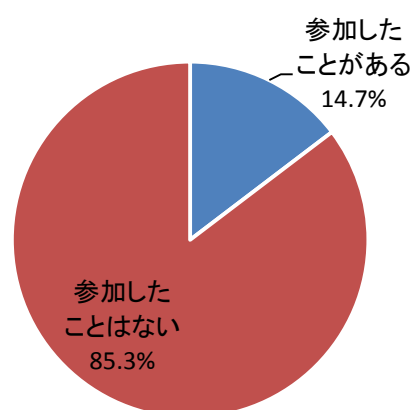
項目	人数（人）	割合（%）
旬のもの、地元のものを選んで購入する	192	55.2
身近な生きものを観察したり、外に出て自然と積極的にふれあう	167	48.0
エコツアー（ガイドによる自然体験）に参加する	69	19.8
生物多様性に関わる観察・調査・保全・再生などの活動に参加する	114	32.8
生きものを最後まで責任を持って育てる	141	40.5
生物多様性や環境に配慮している企業の商品やサービスを優先的に選ぶ	102	29.3
自然や生きものについて、家族や友人と話し合う	67	19.3
節電や適切な冷暖房の設定など地球温暖化対策に取り組む	175	50.3
特に行いたいと思わない	11	3.2
その他	8	2.3



問9 あなたは「エコツアー」※に参加したことがありますか。(回答チェックは1つだけ。 n=348)

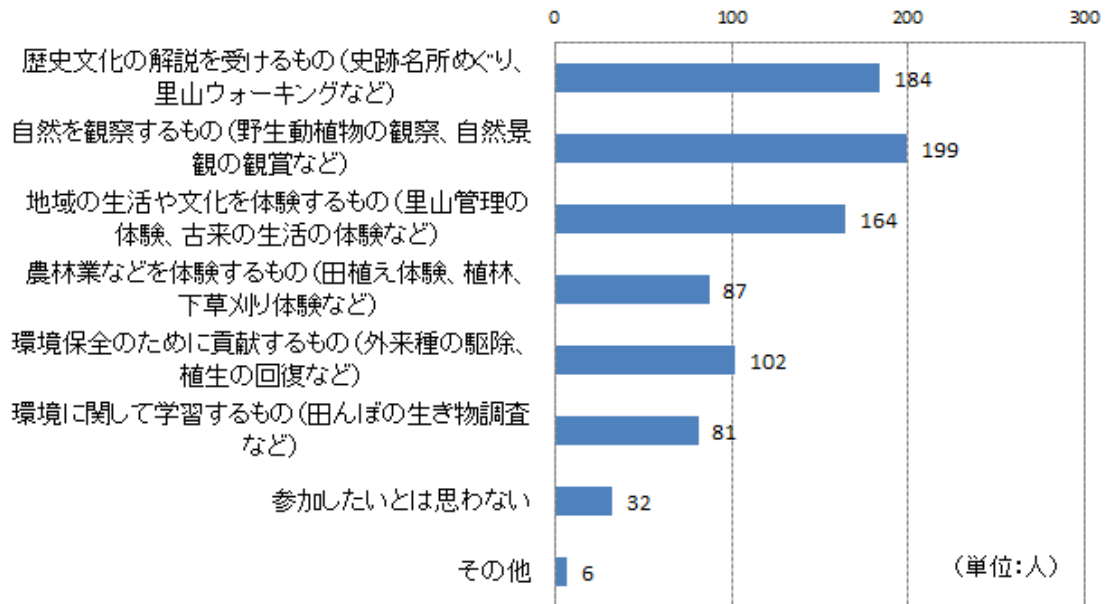
※エコツアー…観光旅行者が、自然観光資源について知識を有する者から案内又は助言を受け、当該自然観光資源の保護に配慮しつつ当該自然観光資源と触れ合い、これに関する知識及び理解を深めるための活動を「エコツーリズム」(エコツーリズム推進法第2条第2項)といい、エコツアーはこの考え方に基づいた旅行のことを言います。

項目	人数(人)	割合(%)
参加したことがある	51	14.7
参加したことはない	297	85.3
合計	348	100



問10 どのような「エコツアー」に参加したいですか。(「7. 参加したいと思わない」を選択した場合を除き、回答チェックはいくつでも可。n=348)

項目	人数(人)	割合(%)
歴史文化の解説を受けるもの(史跡名所めぐり、里山ウォーキングなど)	184	52.9
自然を観察するもの(野生動植物の観察、自然景観の観賞など)	199	57.2
地域の生活や文化を体験するもの(里山管理の体験、古来の生活の体験など)	164	47.1
農林業などを体験するもの(田植え体験、植林、下草刈り体験など)	87	25.0
環境保全のために貢献するもの(外来種の駆除、植生の回復など)	102	29.3
環境に関して学習するもの(田んぼの生き物調査など)	81	23.3
参加したいと思わない	32	9.2
その他	6	1.7

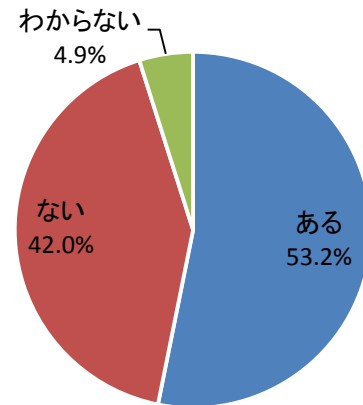


問 1 1 あなたはジビエ※料理を食べたことがありますか。

(回答チェックは1つだけ。 n=348)

※ジビエ…「ジビエ」とは、ニホンジカなど狩猟等で得た自然の野生鳥獣の食肉を意味する言葉(フランス語)で、ヨーロッパでは貴族の伝統料理として古くから発展してきた食文化です。

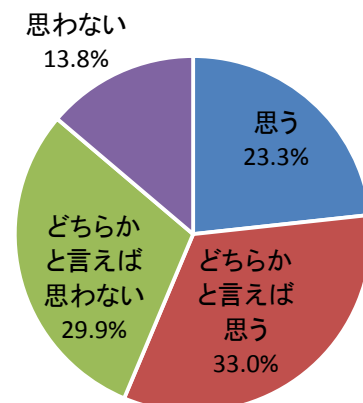
項目	人数(人)	割合(%)
ある	185	53.2
ない	146	42.0
わからない	17	4.9
合計	348	100



問 1 2 あなたはジビエ料理を食べたいと思いますか。

(回答チェックは1つだけ。 n=348)

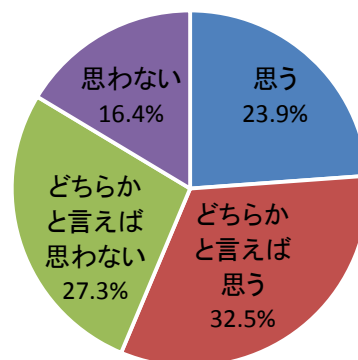
項目	人数(人)	割合(%)
思う	81	23.3
どちらかと言えば思う	115	33.0
どちらかと言えば思わない	104	29.9
思わない	48	13.8
合計	348	100



問13 あなたはジビエ料理を食べるイベントがあれば行きたいと思いますか。

(回答チェックは1つだけ。 n=348)

項目	人数(人)	割合(%)
思う	83	23.9
どちらかと言えば思う	113	32.5
どちらかと言えば思わない	95	27.3
思わない	57	16.4
合計	348	100



問14 あなたはジビエの活用についてどのようなところに関心がありますか、またどのような点で関心が持てませんか。(抜粋)

<関心がある点>

- ・私が食べたのは鹿のカレーだが、鹿として人間社会を破壊しようとする明確な動機はなく、生きんが為にどうしても人間の領域に出没して駆除され命を奪われているのだから、そのご遺体をかたんに捨てるのではなく、また人間が生きるために再生してあげるのが当然と考える。
- ・ジビエに関心があるが近くに手に入れる場所が無い。イベントでしかお目にかかれないのでより簡単にジビエが手に入るようにできないかと思っています。
- ・購買ルートの確保・おいしくて・簡単な調理方法の案内又実演などをして頂くと有り難いです。
- ・肉は筋肉質でヘルシーだと聞きました。食べてみたいです。
- ・ジビエ料理が一般に広く伝われば、シカの駆除につながると思う。しかし、それはなぜシカを駆除しなければならないかを正しく伝えなければ本当の活用にはならないと思う。
- ・食害を防ぐために狩猟されたシカをいかに処理するかに関心がある。一時期、ココイチでジビエを使用したカレーが話題となったが、そのような話題性が重要だと思う。ジビエの活用を通して、食害被害の広報などにも活かせるのではないか。
- ・イノシシやシカなど駆除された生き物を食べるのは自然の尊さを感じるいいきっかけになると思う。ジビエだから、ではなく、命を粗末に扱わないためにも、ジビエ料理は推進すべきと思う。
- ・獣害を減らすことと、生物の命をいただくことで、自然との共存や環境について考える機会となる。
- ・「生命を大切に。生命をいただく。」という意味を理解し、もっと、身近でいただける環境が整えばいいなあと思う。例えば、気軽にジビエをおいしくいただけるレストランがあったらいいなあと思う。
- ・古来からの食料であり、食べるのが好きなので関心がもてる。
- ・特に野生鳥獣被害対策の一環となり、またシカやイノシシは美味しく食材としての価値もあると考えられる点。また、ジビエ料理は地域振興や地域の活性化にも効果的だと考えられます。
- ・獣害が深刻となっている今、獣害動物の駆除は大きな関心である。ただ、生き物を殺生することにはためらいがあるが、それを活用していくとなれば、別である。しかし、まだジビエ料理についての理解が不足しているし、進んで食する(購入する)という人は少ないと思う。多くの人に受け入れられるように、いろんな機会を通じて試食などの接する機会を多くできないか。
- ・食肉についての知識が十分でないので 食の安全が気になります。安心して食することができるお店とその仕組を県や市町で徹底していただけると安心です。

<関心がない点>

- ・生臭そうなイメージがあり、関心が持てない。
- ・動物を狩猟するところに関心が持てません。魚などなら抵抗がない。
- ・自然の野生生物は、どのような寄生虫とか病気を持っている可能性がある。料理をする人も素人がやるようでは不安です。私の近くでも、イノシシやシカの狩猟をしていますが、解体した肉を食べようと言ってくれますが、抵抗があり、食べることができません。
- ・食用に飼育されたもので無いため、食べない。
- ・ジビエの活用の重要性は認識するが、肉を食べる時にその動物の事を思い浮かべて、食べられない。ジビエをうたわなないで、知らないうちに食べているのであれば、食べられると思う。
- ・生態系を狂わせたのはもともと人間なのだから、個体数を減らすために狩りをするというのは人間のエゴだと思うので関心が持てない。
- ・野生生物は寄生虫やウイルスや細菌を保有しているので安全が確認できないからジビエは食べられない。神道で神聖な鹿を食べたいとは思わない。ジビエ料理を断れない雰囲気を作ってみんなで食べようという空気によるジビエの強制はやめてほしい。実際に食べる直前までジビエとは知らされないイベントが県内で数年前にあって以来不快に思っている。いろんな宗教・信条の人がいる公の場（学校など）でジビエを出さないでほしい。
- ・意図して自分の食文化を変化させようとは思いません。
- ・自然の野生鳥獣の写真を撮ることを趣味としているので、その動物たちを敢えて食したいとは思わない。
- ・狩猟等で得た自然の野生鳥獣の肉を食べるべきでない。食肉用として育てた牛豚鶏などのみを食べることは、生物多様性の保全に繋がる一つの方法と考える。

問15 その他生物多様性についてご意見がありましたらお聞かせください。(抜粋)

①生物多様性の普及・啓発

- ・生物多様性の定義が難しい。もっと身近に体験できる動植物について情報を提供して欲しい。田んぼの生物と稲の成長に関する勉強会には参加し、すごく理解できた経験がある。
- ・県や研究施設のみで多様性を保全していくのは限りなく不可能だと思っています。なので、一般の方に生物多様性を知ってもらうのは大事な事だと思います。しかし、なぜ希少種が減っているのか、なぜ外来種を駆除しなければならないのかなどその理由を正確に伝えなければ意味がないと思います。
- ・生物多様性に関わる仕事に以前携わっていましたが、子ども達の方が知識を持っており、大人の方が意外と知らない人が多いです。大人にも伝わりやすい情報発信が大切だと思います。
- ・もっと詳しく生物多様性について学べる資料が欲しいと思う。その知識がごみ問題や地球温暖化防止、資源を無駄遣いしない思想に結び付くと思うので。
- ・生物多様性の意味をどこまで広げるか。外来種は琵琶湖だけにとどまらず、広く植物界にも広がっており、日本古来の種を守る必要性を感じる。その為には、何が外来種であり、駆除対象なのか、もっと多くの資料をそろえ、啓蒙活動を活発に行う必要がある。多くの関心が集まればある程度の数にはコントロールできるように思われる。
- ・私のような年代は、家が農家であったこともあるが、小さいころから、ものを育てたり収穫したりと自然と隣り合わせの生活でした。特に小学校の児童はもっと野外活動の時間をとり自然と触れる時間をとり、体験をしてもらうことが大切と思います。小さい時のそういった体験をしていると、植木鉢で花を育てるのにも役立つ。観察力もつく、生き物に対する愛情もわいてくる。話が飛躍するがいじめに対する気づきも身につく。
- ・環境破壊などが深刻化するなか、生物多様性というキーワードは重要になると思います。環境汚染、プラスチック問題など身近に対応できるところはするようにしています。こういった小さな活動も当たり前のように、子供の教育現場でも早い段階から教えていくべき課題だと思います。
- ・生物多様性という言葉がとっつきにくいです。子どもにもわかりやすいように、絵で説明などがあると印象に残ります。とにかく子どもには、言葉より体験させたいです。

②行政の取組について

- ・生物多様性という用語で、何を具体的に示しているのかは、提示していかないといけない。この5文字の用語では、人によってイメージすることは変わってくるだろう。なにか一つの活動に絞って、県が行動してみても、と思う。
- ・ある程度人が保護保全しないと、自然は残せないと思います。なので、守る立場の人間の確保、農林業者や狩猟関係者など自然にかかわる人を増やしていく必要があると思います。
- ・外来種もすでに生態系に組み込まれており、極端な駆除はかえって生態系に混乱を招かないか。

③その他

- ・子供のころ、近くの川には様々な魚が泳ぎ、子供たちで川に集まり、水遊びをしたり、手づかみで魚を獲ったりして過ごしていました。その自然の中で過ごすことで様々な生物に触れ、生物のことを大事にする気持ちも生まれたのだと思います。でも今は、川には魚がほとんどおらず、川で遊ぶ子供もいなくなりました。そういう時の流れを感じつつ、何とかこれからの子供たちにも自然、生物を感じて育ってほしいと思います。
- ・自然の破壊や生態系への悪影響は、概ね人間がそれを与えていると考えるので、自然の中で住むことができている恩恵を有り難いこととして忘れないように心がけている。壊すのは簡単だが取り戻すのが難しいことを県民一人一人が自覚できる、豊かな滋賀県になってほしい。
- ・生物多様性を維持するためには自然環境の保全が必要であり、そのためには社会全体を変える（行政、企業の在り方や人々の消費活動すべて含む）必要があると思う。
- ・人が生活するうえで生態系が変わってしまう事はやむを得ないと思っています。自然や環境を大切にする取り組みは良いと思いますが、動物を保護したり、自然に人の手が加わる事や過剰に反応することは違和感を憶えます。
- ・「生物多様性」と一口に言っても自然界全般に関わることから非常に範囲が広く、どう取り組めばよいか戸惑う。
- ・さまざまな個性を持つ生物がいてくれるおかげで、私たちは生きていられると思いますが、残念ながら人間が介入することにより、それが阻害されてしまっていることが多々ありそうです。私たちはそれらの生物のうちの一つであるくらいの謙虚な気持ちになるべきで、これ以上環境を悪化させないよう務め、手を加え過ぎず、見守る姿勢を大切にできたらと考えます。
- ・安易にペットとして飼っていた生物を放棄されたために野生化して繁殖し、古来種生体への影響や自然環境破壊になっている。人間の身勝手な判断、行動に腹立たしく思う。
- ・生態系に人の手を加えるのは賛成できない。だけど人が生態系を狂わせたのなら、その責任は人が背負い、できるだけ自然をもとに戻す努力はした方がいいと思う
- ・自然の野生鳥獣を人間の都合によって、害鳥獣を含め、殺さなくてもよいような対応が出来ないものかと思う。
- ・外来生物の駆除は人為的な行為であり自然ではないと言えます。在来の動植物が外来生物に負けることもまた自然の摂理です。野生動物により農産物が荒らされることも本質的に自然現象です。しかし、それを自然と認めずに抗うことは自然現象に逆らうことであり、自然を守ることはありません。しかし私たちは自然に抗うことを自然を守ると言っており、矛盾しています。私たち滋賀県民が特定の動植物だけを保護したいというのは正直ってエゴであり、本当に保護すべき動植物は多岐に渡ります。自然保護を訴えるなら、なぜ限定された数種類の魚ばかり守って、陸上の外来植物（キクイモなど）や甲殻類（アメリカザリガニなど）や爬虫類（牛ガエルなど）などを駆除しないのでしょうか？やはり自然より特定の在来種を使ったお金儲けが大事だからだと言わざるを得ません。

③その他（続き）

- ・滋賀県特有の生物が減少していることは寂しいです。特に母なる湖琵琶湖には、様々な種類の生物が生息し、ある種畏れ多い生き物もいるのではないかと子供の頃から思っておりました。何もかもが情報で知れる時代だからこそ神秘的な部分も大事にしていきたいと感じました。今回”守り”という言葉に懐かし響きと感じました。昔は、「もりせな！」とじいちゃんばあちゃんたちがよく言っていたことを思い出しました。自然とともに生かされているんだという気持ちで、自然に感謝していきたいです。
- ・生物多様性と言いながら、上記「ジビエの活用」などという表現に人間が生き物の頂上に居るような傲慢さを感じて仕方がないのです。西欧の食文化をわざわざ取り入れて殺生をすることと、生物多様性という全ての命を活かしていくこととの間に大きく矛盾を感じます。鹿は山に被害を与えるから間引きが必要って、狼などの食肉動物を全滅させてしまっって草食動物の無駄な増繁殖を行わせたのは人間ですよ。